



# 処理水放出開始



## 初回延べ17日間 7800トン

## 本年度中、計4回予定

東京電力は24日午後、福島第1原発から出る処理水の海への放出を開始した。初回は延べ17日間で7800トンを放出する計画。廃炉の課題だった処理水の処分がようやく動き出した一方、放出による海産物などへの風評被害が今後の懸案となる。

海洋放出では、原発構内のタンクに保管されている処理水を海水と混ぜ合わせて国の基準の40分の1に当たる1立方メートルあたり1500ベクレル未満まで希釈し、海底トンネルを使って沖合約1キロの地点に放出する。希釈用のポンプが止まったり、放射性物質の値に異常を検知した際は移送配管の2カ所にある緊急遮断弁が作動、放出を停止する。震度5弱以上の地震など自然災害の発生

生でも放出を停止する。

政府が22日の関係閣僚会議で24日の放出を決定したことを受け、東電は放出に向けた準備作業に着手。試験的に少量の処理水を希釈した後の検査でも放射性物質のトリチウムの値に異常が確認されなかったことから、予定通り海への放出を始めた。

東電は本年度中に約3万1200トンの処理水を4回に分けて放出する。1日当たりの放出量は約4600トンを予定しており、慎重を期すため、本年度に放出する処理水のトリチウム総量は5兆ベクレルと、上限の22兆ベクレルを下回る予定となっている。東電は本年度の放出状況などを踏まえ、来年度以降、処理水の放出量を増やしていく考えだ。

敷地内に処理水の保管タンクが並ぶ東京電力福島第1原発  
22日(共同通信社へりから)